

第20回日本腎不全看護学会学術集会・総会 共催スイーツセミナー1

# 高齢血液透析患者さんに寄り添う 多面的な視点での看護

～看護師の提案による早期解決を目指して～



司会 **水内 恵子** 先生

安田女子大学  
看護学部 看護学科 准教授



2017.10.21  
盛岡地域交流センター 第1会場

 鳥居薬品株式会社

共催：第20回日本腎不全看護学会学術集会・総会／鳥居薬品株式会社  
記載されている薬剤の使用にあたっては添付文書をご参照ください。



チームに治療の変更や追加を早期に提案することも看護師の重要な役割です(表1)。透析前の収縮期血圧が180mmHg以上の場合、早朝高血圧や医療施設に来院した際の血圧上昇なども考えられるため、家庭血圧の測定をしたうえで、降圧薬の投与やDWの変更などを検討することが重要です。透析低血圧の場合は、昇圧薬の投与や透析条件を変更することなどを検討していくことが求められます。透析終了後にふらつきを認める場合には、臥位と立位の血圧を測定して、起立性低血圧を確認することが必要です。また、血糖コントロールの悪い血液透析患者では透析日の透析終了後の食事をした後に高血糖をきたしやすく<sup>4)</sup>、血管内皮への負担を軽減するためにも、血糖変動(グルコーススパイク)の平坦化を目指す治療が必要になります。透析前の血糖値が300mg/dL以上、もしくは低血糖でも口渴症状が現れている場合は、治療の変更・追加が必要になることもあるため、看護師から医療チームへ報告することが重要です。

一方、高齢血液透析患者では貧血管理も重要になります。ESA製剤も鉄剤も投与されておらず、フェリチン値が50ng/mL未満、かつ、貧血を伴う場合は、鉄剤補充の適応と考えます<sup>5)</sup>。ただし、静注鉄剤は酸化ストレスを惹起する報告があり<sup>6)</sup>、経口鉄剤と比較して、感染リスク、心血管

疾患リスクの上昇など<sup>7)</sup>の可能性が考えられるため、経口鉄剤の使用が推奨されます。

## 患者のQOLを低下させる「かゆみ」の適切な管理も重要

透析患者のQOLを低下させる合併症に、かゆみがあります。かゆみは、さまざまな要因が関与することが明らかになっていますが、それらは皮膚におけるかゆみと中枢神経におけるかゆみに大きく分けられます。

看護師によるかゆみのケアとして、乾燥や掻破といった刺激による外因性のかゆみにはスキンケアと生活指導を行い、また、起痒物質によるメディエーターの産生亢進による内因性のかゆみや、オピオイドとその受容体に関わる中枢性のかゆみには薬物療法に加え心のケアを行うことが求められます(図4)。まずは、かゆみを予防するための生活指導を行うことが肝要です。例えば、皮膚乾燥を防ぐための正しい入浴方法や保湿剤の塗布方法などを説明し、スキンケア等を指導します。その他、適切な睡眠時間の確保やかゆみを誘発させない衣類の選択、住環境や運動について説明を実施し、ストレスの解消法や食生活の留意点などについて指導します。

かゆみに対する薬物治療については、外用剤をはじめ幾つかの選択肢がありますが、それらの治療を実施したにもかかわらずかゆみが改善しない場合は、中枢性のかゆみを

表1 透析患者における管理目標と看護師による提案

	管理の指標	逸脱した場合の医療チームへの提案
血圧管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>透析前収縮期血圧 120mmHg未満と 180mmHg以上を回避</li> <li>透析低血圧を回避</li> </ul>	家庭血圧と起立性低血圧の測定結果とともに、降圧薬変更・DW検討・透析条件変更・昇圧薬投与の検討
血糖管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時血糖 180~200 mg/dL</li> <li>グリコアルブミン(GA) 20%(心血管イベントや低血糖がある場合 24%)</li> </ul>	①透析前300 mg/dL以上の高血糖を報告(透析液ブドウ糖濃度 100~150 mg/dLのため、400~500mg/dL以上で少量インスリンの投与) ②低血糖、口渴があれば報告(随時血糖値とGAの比較)
鉄管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者ではフェリチン値 50ng/mL未満で貧血を伴う場合には、鉄剤補充の適応</li> </ul>	静注鉄剤を回避し、経口鉄含有製剤の補充
リン管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>血清リン濃度 3.5~6mg/dL</li> </ul>	患者の服薬状況の確認とリン吸着薬等の投与

提供：岡田一義先生

図4 原因別かゆみ治療の基本

